

活動内容報告書

1 学校名 群馬県立松井田高等学校

2 活動テーマ 「明るく元気な松井田高校」を目指して
 - 「ハートフルMATSUKOU」の推進 -



3 ねらい

本校では、「ハートフルMATSUKOU」を掲げ、生徒の自立への支援、基礎学力の定着、社会性の育成に重点を置いた学校づくりを推進している。基本方針は、生徒一人一人のよさを認め伸ばすことであり、人権教育と関連するところが多い。本事業と人権教育を一体的に推進し、生徒一人一人がお互いのよさを認め合い伸びていく、「明るく元気な松井田高校」の実現を図りたい。

4 活動内容

(1) 「ハートフルMATSUKOU」とは

本校では、生徒一人一人のよさを認め伸ばすという学校教育目標を実現するため、4年前に「人にやさしい」学校づくりをうち出した。「ハートフルMATSUKOU」は、その理念を表すスローガンであり、本校の「特色ある高校づくり」の柱になっている。本年度はこれまでの取組をさらに発展させ、「明るく元気な松井田高校」を目指している。

特色ある高校づくり「ハートフルMATSUKOU」の推進

ア 生徒の自立への支援

日常の教育活動をとおして、生徒の良好な人間関係づくりに努めるとともに、教育相談活動、研修の充実、保護者・関係者との連携・協力を図り、カウンセリング指導等を積極的に実施する。特に、不登校生徒の自立支援等を図るために、登校時のカウンセリング、家庭訪問による保護者・本人面談等に、組織的、計画的に取り組む。

イ 基礎学力の定着

国語・数学・英語において少人数・習熟度別授業を展開するとともに、2・3年次では、進路希望を踏まえたコース制クラス編成をとおして基礎学力の定着を図る。また、地域社会で活躍している人材を、行事・部活動等へ招聘し、生徒の地域理解を深めさせるとともに、基礎的な社会で活用できる力を育成する。さらに、教員相互の授業研究、研修機会の拡充等をとおして、一層の授業改善・充実を目指す。

ウ 社会性の育成

教育活動の中に、校内・地域での清掃・美化活動等の勤労・奉仕体験的な活動を盛り込み、これらをとおして、社会に貢献・寄与する精神を養い、社会性の育成に努める。また、これらを発展させ、主体的な地域社会での清掃活動、福祉施設・児童施設での介助・補助活動など、地域に密着したボランティア活動への参加・促進を図る。

本年度の重点目標

- ①基礎・基本の定着を図る授業改善、②体験学習（勤労体験、奉仕活動等）の推進、③地域でのボランティア活動の奨励・支援、④各種資格試験の取得指導、⑤教育相談の充実、⑥体育・文化部活動の活性化、⑦保護者・地域との連携協力の推進、⑧学校施設の安全管理

(2) 学校づくりと一体化した人権教育計画

本校の学校づくりにおいて、人権教育はまさに「人にやさしい」「ハート」にかかわるものとして重要な意味を持っている。そこで、学校づくりのあらゆる場面で人権教育が行われるように、人権教育全体計画（添付資料参照）と年間計画を作成し、計画的・組織的な取組に努めている。その概要は右のとおりである。

人権教育計画の概要

ア 特別活動等における常時指導および間接的指導

- ① 学校行事、生徒会活動、生徒指導、進路指導における配慮・指導
- ② 人権に関連した体験的な活動の充実
ボランティア活動（保育園・老人福祉施設の訪問等）、ラベンダーの植栽等
- ③ 教育相談活動の充実 各種面談、企画カウンセリング、ピア・サポート等
- ④ 保護者の啓発 保護者面談、PTA活動等をとおしての働きかけ

イ 教科・科目等における直接・間接的指導

人権にかかわる重要課題等について、関係教科で分担して指導
 国語、地歴・公民、保健、家庭、情報、総合的な学習の時間

ウ ホームルームにおける直接的指導（人権教育集中授業）

11月にLHR1時間を使い、学年共通指導案で集中授業を実施

エ 教職員の研修

- ① 人権教育計画に関する校内研修、人権教育集中授業に関する校内研修
- ② 校外研修の報告、外部講師の招聘、人権講演会参加等

(3) 活動状況

ここでは、本校の特色的な取組のいくつかを紹介したい。

ア 内面に働きかける生徒指導

本校の生徒指導は、「ハートフルMATSUKOU」の精神を踏まえ、生徒の内面にていねいに働きかける指導を目指している。そのために、クラス・部活動等を単位としながら、生徒一人一人をいずれかの職員がフォローできる態勢づくりに努めている。

特に1年生については、中学時代不登校であった生徒等が多いことから、細心の注意を払っている。合格発表直後から顔と名前を覚え、入学後すぐに生活オリエンテーション、休み時間や登下校時の巡回・声かけ、個別面談、びあアンケート、さらに4月中に教科担当者会議を行う。こうして早期に生徒の実態を把握して相談体制を確立し、きめ細かな定着指導を行っている。

イ びあアンケート

ピアサポート活動の一環として、1年生の様々な質問に2・3年生が答えるアンケートを実施している。1年生から出される様々な不安や悩みに、2・3年生が親切に答えを書いてくれ、1年生から3年生までが同じびあ（仲間）として支え合う空気をつくり出している。

松高らいふQ&A — 「びあアンケート」より

- Q 松高の良いところは？
- ・先生方が優しく、真剣に悩みを聞いてくれるところ。
 - ・平和なこと。アット・ホームなところ。安心します…。
- Q 勉強は中学に比べてどのように変わりましたか？
- ・中学校でよくわからなかったところなどを集中的にするので、授業がよくわかって楽しくなりました。
- Q 高校生活の中で一番楽しかったことは何ですか？
- ・2年の修学旅行でしょ！まじ絆深まる！
 - ・普通に教室でのおしゃべりが一番楽しい。
- Q 良い高校生活を見つけるには…
- ・何か目標を見つける。
 - ・先生、友人、先輩と仲良くして部活やボランティアに参加しましょう。

ウ MVC活動（ボランティア活動）

「MVC」とは、「松井田高校ボランティアクラブ」の略称である。「自主（自分から）・自学（自分のため）・自然（無理せず）・地元（歩ける範囲で）」をモットーに活動している。

主なMVC活動

校内活動) 鯉のぼり揚げ、夢伝しおり作り、ラベンダー計画その他校内の様々な作業への協力

校外活動) 町内の2つの保育園や老人福祉施設うすいの里の訪問(長期休業中)、障害者のマラソン大会「夢伝」やその他の町のイベントへの協力、地域清掃等

参加は自由だが、どの活動にも10～20名が集まる。そこにはいつも新鮮な出会いがある。初参加で緊張気味の人には先輩のアドバイスや気遣いがある。校外活動では世代を越えた交流がある。特に、保育園と老人福祉施設における活動は、幼児や高齢者を相手に緊張と戸惑いの連続である。そこは相手と向き合い、自分と向き合わざるをえない真剣勝負の場である。また、そこに働く人々との交流をとおして、仕事の厳しさや尊さ、人の温もりを実感する。こうしたことが、生徒の福祉現場への理解を深めると同時に、人権感覚を磨く貴重な体験となっている。



東山道古代祭り
鎮兵隊に扮して行進



夢伝大会
車椅子マラソンの伴走



保育園訪問
プールの補助



老人福祉施設訪問
お年寄りとのコミュニケーション

エ ラベンダー計画

「人にやさしい」環境整備の一環としてラベンダーの植栽に取り組んでいる。平成 14～15 年に植えた約 100 株が立派に成長し、本校の名物になっている。6 月に摘み取った花は、ドライフラワーにして卒業記念品にしたり、押花葉にして来校者等に配ったりしている。一連の作業は、「ハーブタウン松井田の会」の協力を得て、生徒会と MVC が中心に行っている。



オ 校外学習の充実

本校の総合的な学習の時間は、右のようなテーマの下、社会に貢献・寄与できる基礎力を身に付け、主体的に進路実現のできる生徒の育成を目標としている。そのために、外部講師を招聘したり地元商店街や施設等の協力を得たりしながら、地域の文化・産業、社会生活等に関する様々な学習を行っている。その中で、下表のように、修学旅行以外にも校外に出て実際に本物を見学・体験する活動を積極的に展開している。次項の「米作り」もその一環である。

総合的な学習の時間	
1年:社会と人間Ⅰ	自己と地域を見つめる
2年:社会と人間Ⅱ	地域の中での生き方を考える
3年:社会と人間Ⅲ	未来を拓く

月	1 年	2 年	3 年
4月	琴平宮	後閑城址	日野ユートラック
6・7月	ボルテックス、産技専等	上級学校見学会(班別)	上級学校見学会(班別)、ビューホテル等
9月	碓氷製糸、女神インキ		
10月	埼玉平和資料館等	修学旅行(広島・姫路・神戸・大阪)	東京消防庁、最高裁判所
11月	アプトの道・碓氷関所		人体の不思議展等

これらは、仲間意識や連帯感の育成、公衆道徳体得の場でもあり、人権教育上も有意義な活動である。教科横断的な探究学習として取り組ませるだけでなく、体力のない生徒を周りがどのように支えられるかとか、ごみの始末や世の中のルールやマナーの意味等も考えさせるようにしている。



地域学習&清掃活動(1年)
アプトの道・めがね橋



平和学習(2年)
広島平和記念資料館



法学習(3年)
最高裁判所大法廷

カ 米作りプロジェクト

総合的な学習の時間の一環として、「米」を柱としたもの作りと地域の人々の暮らしを学ぶ学習を行っている。平成 15 年度に地元の方から土地の提供を受けて 1 年生が始め、現在は全校活動になっている。1 年生が田植え、3 年生が稲刈、2 年生が脱穀というように分担し、1



田植え(6月)



稲刈(10月)



脱穀(11月)

月に全校で餅つき大会を行い、喜びを分かち合う。脱穀では千歯こきや足踏み機を使うなど、産業の発展や地域に受け継がれてきた伝統にも思いを寄せる。講師に地元農業指導者を招聘、餅や赤飯を関係者に配るなど、地域交流を図る活動ともなっている。

キ 各種検定試験への挑戦

教科指導、進路指導の一環として、英検、漢検、ペン検、ワープロ検、秘書検等への挑戦を奨励している。社会的に認知されている検定に目標をもって取り組むことをとおして自己効力感や達成感を味わわせ、自信や自尊感情を育てることを重視している。受検人数は年々増加し、友達同士で激励しあう姿もしばしば見られる。

ク ロングホームルームにおける人権教育集中授業

『共に生きる』を一昨年度入学生から導入し、本年度は全学年で活用している。11月の集中授業では右のようなテーマに取り組んだ。生徒の実態を踏まえ、ワークシートは『学習シート集』を参考に独自に作成し、学年共通指導案により、参加体験型の授業を実施した。3年の「男女共同参画社会」の授業では、事前アンケートを基に男女の特性や役割をめぐって活発な議論が行われ、個性の尊重や男女の協力について理解が深められた。

『共に生きる』の活用

1年:「権利の熱気球」
2年:「統一応募用紙」
3年:「男女共同参画社会」



ディスカッション(3年)

男女共同参画社会について

5 評価と課題

(1) 人権感覚と知的理解の深化

学校づくりを踏まえた全体計画・年間計画により、教育活動全体を通じた人権教育を推進することができた。その中で、特にボランティア活動や校外学習等の諸活動は、右の体験記が示しているように、人権感覚の価値的・態度的側面と技能的側面を総合的に養う重要な場になっている。これらの諸活動はさらに推進していきたい。他方、人権感覚の深化のためには知的理解の深化も不可欠である。各教科における人権に関する指導計画と実践も併せて拡充していきたい。

短大の介護福祉学科に進学した生徒の体験記 — 進路通信(H18.3.1)より

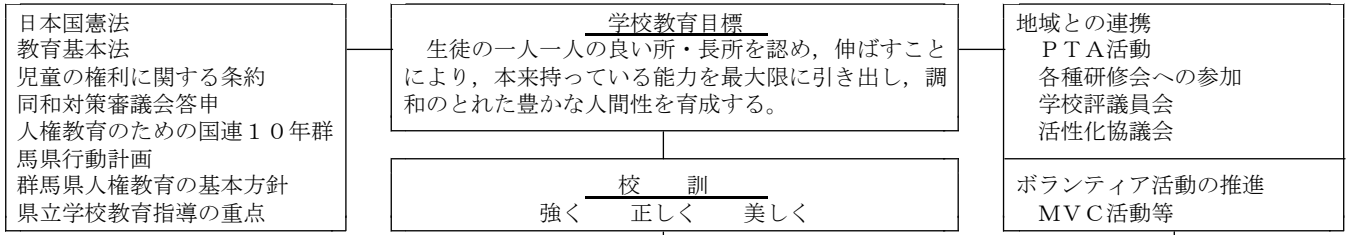
私が「介護」という仕事に興味を持ったのは、小学校6年生の時でした。祖母が病気で入院し、そのお見舞いへ行った時の介護福祉士さんの姿を見て、私もこのような仕事に就き、誰か一人でも良いから私と接することで笑顔になってくれたら、と思ったからです。

しかし、現実にはそれほど甘くありませんでした。以前の私は、ただ「介護福祉士になりたい」「人の役に立つ仕事をしたい」という理由で「介護」を目指していたように思います。そのような甘い考えに気付かせてくれたのは、松井田高校でのボランティア活動(老人施設への訪問)でした。介護は「人対人」であること、人とうまくコミュニケーションが取れて初めて介護という仕事が成り立つことがわかりました。人と関わることが苦手だった私も、このボランティア活動を通して様々なことを学び、大きく成長できたと思います。

(2) 組織的な取組の強化

「ハートフルMATSUKOU」は生徒の間にも浸透し、人の気持ちを理解し考えて行動する「人にやさしい」校風が育まれてきている。それは、体調を崩した生徒に対する周りの生徒の自然な配慮、「松高ばりあふりい」という前回の文化祭のテーマ、問題行動や人間関係上のトラブルの減少、MVC活動参加者の増加など、様々な形に表れている。「明るく元気な松井田高校」は確実に築かれつつある。

しかし、人間関係上のトラブルは無くなることはない。「人にやさしい」校風に甘える生徒も見受けられる。他方ではLD、ADHDへの対応など、課題は多い。職員研修による共通理解の促進、保護者・地域との連携等により、組織的な取組を一層強化していきたい。



「ハートフルMATSUKOU」の推進 ①生徒の自立への支援 ②基礎学力の定着 ③社会性の育成

本年度の重点目標 ①基礎・基本の定着を図る授業改善の推進 ②体験学習(勤労体験、奉仕活動等)の推進 ③地域社会でのボランティア活動の奨励・支援 ④各種資格試験の取得指導 ⑤教育相談、カウンセリング指導の充実 ⑥体育、文化部活動の活性化 ⑦保護者、地域との連携協力の推進 ⑧学校施設の安全管理

人権教育目標

人間の尊厳について深く自覚し、人権にかかわる重要課題を正しく理解するとともに、人権を尊重する社会を積極的に築こうとする態度を養う。

【その他の特別活動等における常時指導および間接的指導】

- 【生徒の実態と指導】**
- ・ 中学時代に不登校であった生徒、障害を持つ生徒、健康上注意を要する生徒が多いことから、これらの生徒個々に応じたきめ細かな指導とともに、相手の立場に立って考える思いやりのある心を育てる指導を推進する。
 - ・ 学習指導においても、わかる授業、丁寧な指導を推進するとともに、一人一人を大切に作る心の育成に努める。
- 【学校行事】**
- ・ 儀式的行事を通じて、生活における節目を自覚させるとともに、集団への帰属意識・愛校心の高揚、協調性の涵養等を図る。
 - ・ 映画教室、性教育講話、文化講演会等を通じて、豊かな心と人間尊重の精神を育成する。
 - ・ 健康診断、生活安全教室、防災訓練等を通じて、生命尊重の精神や健康の保持増進、安全へ配慮する態度、責任感等を養う。
 - ・ 体育的行事等を通じて、心身を鍛練するとともに、団体行動を通じて連帯感や、責任感、協力を養う。
 - ・ 修学旅行(2年)や日帰り修学旅行(1, 3年)を通じて、仲間意識や連帯感の育成、公衆道徳の体得を図る。
 - ・ 清掃活動等を通じて、協調性や奉仕の精神を養うとともに健全な職業観の育成の一助とする。
- 【生徒会活動】**
- ・ 生徒会行事を通じて、自主性を養うとともに、協調性や連帯感、仲間意識等を育む。
 - ・ 部活動においては、教師、生徒間の信頼関係に基づいた好ましい人間関係を保つよう配慮するとともに、共通の目的に向かって努力する中で良好な仲間づくりが育成されるよう努める。
- 【生徒指導】**
- ・ 生徒のあらゆる行動を「サイン」として読み取り、生活の乱れや友人関係のトラブル等の防止に努める。
 - ・ 指導措置は生徒が自己を見つめなおし立ち直るための機会であると位置づけ、克己、自立、自発の意思確認を徹底する。
 - ・ 授業規律の確保に努める。
- 【教育相談】**
- ・ 面談やカウンセリング等を手がかりとして問題点を考察し、原因となっているストレスを緩和させるような指導に取り組む。
 - ・ ピア・サポートを通じて他の人を思いやることを学ばせる。
- 【進路指導】**
- ・ 1学年では、高校生活への適応を図り、自己理解を促し、進路希望を明確にさせる。
 - ・ 2学年では、自己理解を深め、進路情報を検討し、進路の再吟味をさせる。
 - ・ 3学年では、進路の決定および将来の生活に適應できる能力や態度を養う。
 - ・ 以上のような目標を達成させるために、時宜を得た資料の作成・配布、進路希望調査、諸検査・テスト、上級学校見学会等を実施し、ホームルームにおける進路学習を充実させ、生徒が互いの進路を認め合いながら進路実現に向かって努力するよう促す。
- 【ボランティア活動】**
- ・ 地域の福祉施設におけるボランティア活動を通じて、福祉に対する理解を深めるとともに、地域との連携を図る。
 - ・ ボランティア活動を通じて、自立の精神、思いやりの心、公共心、奉仕の精神等を養う。
- 【その他】**
- ・ 保護者面談、家庭訪問、学年集会、学年通信、P T A総会などを通じて、保護者に対するはたらきかけを行う。

【教科・科目における直接的指導】

	第1学年	第2学年	第3学年
指導内容	国語総合 日本語と日本文化 現代社会 人間の尊厳と平等 保健 感染症とその予防 家庭総合 子どもの権利と児童福祉 情報 A 情報社会における人権	国語表現 世界との会話(様々な価値観) 世界史A 市民革命、産業革命 保健 思春期と性、エイズの予防	世界史A 市民革命、産業革命 政治・経済 基本的人権の保障

【ホームルームにおける直接的指導(人権教育集中授業)】

※ 本年度は3年生も『共に生きる』を活用

指導内容	人権についての基本的理解 ・異なる者同士が共に生きるためには、人権についての相互理解、相互尊重の努力が必要であることを認識させ、差別やいじめが起らない学校生活を構築しようとする態度の育成を図る。 ・2・3年の人権学習への動機付けを図る。	差別についての基本的理解 ・「差別とは何か」、「そこにどのような問題がおこっているか」など、問題の基本的認識を主眼とする。 ・差別は人権尊重上重大な問題であり、人間の尊厳を著しくけがすものであることを認識させる。	人権問題解決の意識の向上と態度の育成 ・3年間の学習のまとめを行うとともに卒業後社会に出るにあたって、人権問題についての社会的な認識を深める。 ・卒業後も、差別をしない、差別を許さない、差別に負けないという態度を育成する。
------	--	--	---